2018

Summer

なにわなしなず

CONTENTS

2018
健康経営優良法人
Health and productivity

01	news / 理事長まえだのヨモヤマバナシ
02	お母さんの日々あれこれ
03	事業所探訪 / アトリエナニワ
04－05	Case book
06	サポータークラブだより
07	スタッフ紹介 / あとがき

news

6月1日は特別記念食でした！！

6月1日は「特別記念食」、今年のメニューは、以下の通りでございました！

・ローストビーフ丼
・エビフライ＆唐揚げ盛り合わせ
・ミニトマポテト
・ミックスピザ
・チョップドサラダ
・ミニアラモード
・ケーキ

メニューもいつもと違うのですが、何より食堂の雰囲気がいつもと変わります。そんな雰囲気の中で食べるからこそ、余計においしいのでしょうね。

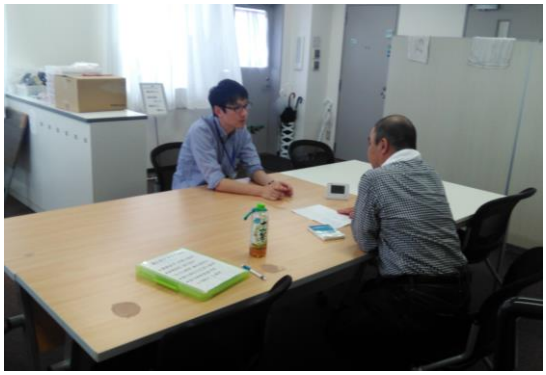
利用者さんもスタッフも楽しみにしている恒例行事の特別記念食、今年も大盛況に終わりました。（小池）

就労移行支援　ご報告

この4月から始まりました、就労移行支援事業「ワークサポートなにわジョブコネクト」。担当者が利用者Tさんの支援について意識していることは、「締切を意識する」ということです。これは、デスクワークであっても、立ち仕事であっても共通して求められることです。

締切に間に合わなかったとき、Tさんは落ち込んでおられます。同時に「間に合わせるためにはどうしたらいいのだろう」とも考えておられる様子が見られるそうです。

「Tさんに合う仕事」を探しつつ、同時並行で「どんな仕事でも共通すること」を身につけて頂けるよう支援を進めています。（小池）



理事長まえだの ヨモヤマバナシ

社会福祉法人の原点回帰の「一歩」を

先日、某新聞社の研究員の方から「こんな大変な時代なのに、社会福祉法人は何をやってるんだ！」「今こそ、社会福祉法人の奮起を期待する」というお話を聴く機会がありました。

話の内容は、コミュニティーの崩壊が進み、増大し続ける「孤独死」「引きこもり」「貧困」「虐待」等々の裏側には、地域にも、会社にも、家族にも相手にされず「社会的に排除された人々」が関わっていることが多く、昔はその周りに、社会福祉法人の人がいたが、現在、現場で社会福祉法人の人をみかけることがほとんどなくなってしまった。というお話でした。

しかしながら、昨今の大テーマである、人財不足対応、労働環境の改善等を進めていく中では、大変なケースを担うことは、それに相反するという一面もあり、管理者や経営者にとっては悩ましい話になっているのだと思います。

これまで何度も話をしてきた通り、障害児者福祉においても「行動障害のある人の受入れ拒否」「児童施設における年齢超過児童への一方的な退所措置」「医療対応が必要になってきた入所者の対応困難」等々といった緊急かつ重大な事態がたくさん存在しています。

今更ながらの話になりますが、私たちは、まず、当事者とそのご家族も含め、関係者一人・一人が、本音で語り合い、地域の優先課題を明確にし、できることから、少しずつでも、共に試行錯誤を繰り返すことができる環境を、もう一度、創り直していくことから始めていかなければいけないのではないかと思います。

黙って頑張る家族・支援者だけに期待する悪循環から脱却し、原点回帰の「一歩」をと思います。

夏休みの思い出を振り返ったあの日

年長の 8 月 30 日、夏休みがあと一日で終わる夕食時に、私から「残り一日やね～」と声をかけたところ、シクシクと泣き始めて、「楽しかったね…」とポツリ。そこから「いっぱい遊んでくれてありがとう」「プールに行ったことが楽しかった。」「ばーばんちに行ってお泊りできた。」と初めて過去の出来事を振り返って、気持ちを表現してくれたんです(^^)それがとてもうれしかったですね♪♪

これまでは、何をしても楽しんでくれていたのですが、そのことを振り返ることはなく、過去より、今に意識が向いているようでした。ただ、それ以降こういった場面が増えたかというとそうでもないのですが、遊んだことを絵に描いたりして、言葉ではないけれども、自分なりのかたちで表現することは増えたように思います☆彡

何でも受け入れてくれるので、本当はどう感じているのかなと思っていたのですが、自分の思いを表現してくれたあの日が、成長を感じた記念日となりました

by　ほのあかママ

記念日を思い出している時のお母さんの表情が、自然と笑顔になっていたのが、とても印象的でした☆ご協力いただいたお母さん方、ありがとうございました！【梅林(直)・重安】

お母さんの日々あれこれ vol.19

お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです

今回のテーマ
『思い出の記念日』

たくさんの“記念日”

思い出の記念日といえば、う～ん…やっぱり子どものことかな。

8 か月ごろに首が座ったこと、1 歳のころ水分が飲めるようになったこと、1 歳の誕生日を自宅で迎えることができたこと。はじめていいうんちが出た 5 歳のときのことや、小学 5 年生ではじめて海に行けたこと、バスにはじめてみんなと乗れたこと、などなど…。たくさんの“はじめて”、そして“あたり前のことができるようになったとき”。大きなことも小さなことも、成長の瞬間を次々と思い出します(^.^)

でも、やっぱり一番の記念日はこの子が生まれた日かな。想像していた子育てとは違ったけど、何よりもこの子がいてくれたから、私も、夫も成長できているのかなぁ…と。夫に相談したり一緒に悩んだり、この子のおかげで絆が深まりました。でも結婚記念日は忘れちゃうんですけど（笑）。

家族 3 人、誰が欠けても成り立たない私たち家族、これからはどんな“記念日”に出会えるのかな

by　けんちゃんママ

事業所探訪

地域で暮らす当事者の方や、ご家族が使える
社会資源を紹介するコーナーです

放課後等デイサービス　タチバナ

〒583-0856
住所　大阪府羽曳野市白鳥 3-15-1 豊田ビル 2 階
TEL　06-7777-0181

今回は、羽曳野市で今年1月に開所された「放課後等デイサービス　タチバナ」を訪問し、寺田紀子さん(タチバナ　児童発達支援管理責任者)、田村佑司さん(一般社団法人いきいきステーション事業責任者)にお話を伺いました。

タチバナの姉妹法人である南河内こどもステーションでは、個別指導塾を運営されています。学習を通して子ども達と関わる中、“塾”という枠組みではフォローが難しい、発達に偏りのある子ども達と出会った田村さん。彼らには、より手厚くフォローできる環境が必要なのでは?そう考えたのが、タチバナをはじめる一つのきっかけになったそうです。

そして新しい法人、一般社団法人いきいきステーションを立ち上げ、はじまったタチバナの支援は、塾のノウハウを生かした学習支援が大きな特徴。塾講師や特別支援教育の経験を持つ専門のスタッフが常駐しています。

平日の主に小学生が利用する前半(13時～17時半)は、各専門の先生を招いて、英語学習や、話題のプログラミングなどを取り入れた支援が行われています。特にプログラミングは子ども達に人気で、普段パソコンに馴染みのない子どもでも、基本的な操作方法、キーボード入力が自然と身に付いていくそうです。

中学生が中心となる後半(17時～19時半)は、それぞれの子どもに合わせた内容と進度で、個別(1対1～1対2)の学習支援を行っています。タチバナがスタートするきっかけとなった、一人一人により寄り添える仕組みが整えられていました。

“やりたい”と思う気持ちを通して、楽しみを持って学びに繋げていくことを大切にしたい、と語られる田村さんの姿に胸が熱くなった訪問でした。

(重安)

ブースで仕切られた席で集中力 UP！！

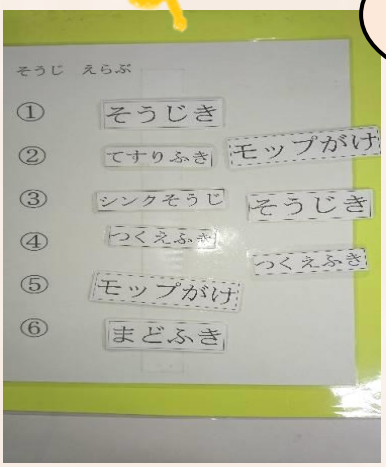
みんなでわいわい
グループワーク◎

アトリエナニワより

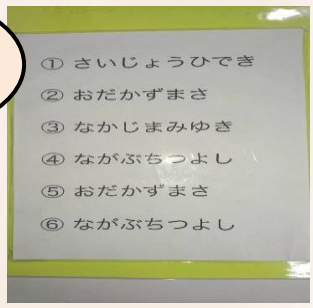
サイコロで活動を決めるツール

ツールの説明

掃除箇所をサイコロで決定するツールです。サイコロの出た目の番号の掃除をしています。
同じ掃除を選ぶことが多い利用者さんもサイコロを使用することで活動の幅が広がるように工夫しています。



その他の活動でも



ツールのメリット等

ツールはメニューを付け変えることができるようにもしています。
また、掃除に限らず、音楽の活動にも応用しています。

今日の掃除はどこかな？

なにわの里で使用している自立課題や
支援ツールを紹介するコーナー

(市原)

イライラを自分で解決できるように

通所支援１係　朝根　敦

【Ａさんについて】
　Ａさんは知的障害のある自閉症の方です。人から関わられることが苦手で、スタッフから作業手順などの指示があると叩いたり、周囲の人の声が気になって、大声を出して物を投げたりするなどの行為がありました。
　特に日中の作業場面は、常に誰かの声が聞こえる騒がしい環境でした。また特定の方の声が聞こえると、その人を指さして「うるさい！」と怒鳴ることがあり、聴覚過敏が一つの要因と考えられました。そのためか物投げなどが頻繁に見られ、なかなか活動に取り組むことができずにいました。そこで、Ａさんが落ち着いて過ごすことができるよう、支援を検討しました。

【環境調整を図ってみるが…】
　まず作業の場所を変更し、特定の方の声が聞こえないようにし、また騒がしい環境も苦手と考えらえたため、個室を用意しました。しかし、周囲が静かな時でもイライラしている様子が見られ、物投げなどに至ることも引き続きありました。
　その原因を探るために、周囲が静かな時に大声を出した時や、物投げがあった時の記録を取りました。
　すると、新たな発見がありました。Ａさんは漢字の書き移しの課題に取り組むことがあるのですが、その際、小さな声で「書かれへん…」と小さな声で呟いた後、「うるさい！」と怒鳴り、鉛筆を投げることがあったのです。その時、鉛筆の先が丸くなっており、文字が書きにくい状態でした。このことから、Ａさんのイライラの原因として、単に周囲が騒がしいというだけでなく、「困った時にうまく伝えることができない」ということが関係していることが考えられました。

【コミュニケーションの練習開始】
　鉛筆を交換してほしい時に、絵カードをスタッフに渡して要求する練習を、何度も繰り返し行いました。すると、Ａさんはカードを渡すことで「言いたいことが伝わる」ことを理解し始めました。その後、飲み物や作業の材料が欲しい時などにも、絵カードを用いました。
　要求できることが増えると、Ａさんの普段の行動にも変化がありました。俯いていることが少なくなり、他者の顔を見て話しをするようになりました。依然イライラすることはありましたが、その数分前に「イライラする」や「しんどい」といった感情の表出が見られるようになりました。

【感情コントロールの支援開始】
　上記のようにＡさんは自分の感情を、一部ですが認識し表現できるようになってきました。そこで、認知行動療法をもとに自閉症の方向けに開発された、『アトウッド博士の<感情を見つけにいこう>怒りのコントロール』という支援プログラムを導入することにしました。その方法は以下のようなものがあります。

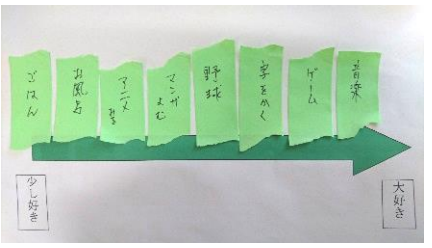
＜支援内容（一部抜粋）＞

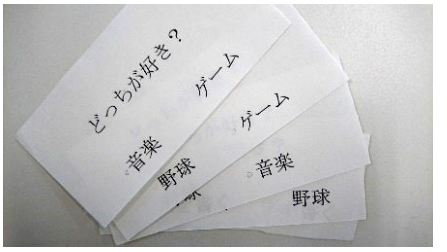
- 好きなことや自分の長所、うれしい時にどういった表情をするか、リラックスしている時はどのような状態かなどを考える。
- どういった時に怒りを感じるか、その時自分にどういったことが起きるかなど考える。
- 怒りを感じた時に、どのようにそれを解消するか考え、練習する。

※『アトウッド博士の<感情を見つけにいこう>怒りのコントロール』
著：トニー・アトウッド、出版：明石書籍

このプログラムは、元々知的に障害のない方向けに開発されたものであるため、本人に合わせて抜粋、アレンジして実施しました。A さんが集中して取り組むことができるよう、スタッフと二人きりになれる場面を設けました。概ね、週に一回のペースで実施しました。ちなみに、A さんはこのやりとりの中で、「作業」「勉強」「ごはん」が嫌いだと答えていました。

以下は、実際に A さんの支援に使用したツールの一部です。





A さんに限らず、怒りを感じる場面や感情の強さによって、さまざまな解決方法が考えられますが、それをその時々で使い分けることは、A さんには難しいと思われました。

そこで、一つの場面と感情に対して、一つの解決方法を結び付けて練習しました。上記の通り「作業」が嫌いであり、作業量が多いとそれを投げてしまうことがあったので、A さんに分かるようイラストなどで、量が多いときはスタッフに「減らして」と伝えることを教えました。ほどなくして、A さんは作業量が多くて取り組むことができない時は、物を投げることなく適切な形で気持ちを伝えることができるようになり、物投げや他害行為などの頻度が減りました。

【まとめ】

最近の A さんは、「○○（音楽）聞いてるねん」「これ好きやねん」など、自身の状況や感情を笑顔で伝えてくるようになり、支援前と比べ、コミュニケーションの量・質が大きく変化しました。自分の困っていることを伝えると応えてくれる、という経験が、A さんの行動を大きく変化させたと考えられます。

しかしながら、A さんはすべてのイライラを解消できるようになったわけではありません。過去に誰かから言われた嫌なこと（「○○しなさい！」など）を自身で発言し、その後に物を投げたり、他者を叩いたりといったことがあります。そういった A さんの辛さを受け止めつつ、それを自身で解決できるよう、成長を促していきたいと思います。

なにわの里　サポーターだより

早々に梅雨が明けたと思えば、真夏日どころか35℃を超える猛暑日がたびたび訪れ、体がギブアップしそうですが、ビールのうまさは格別なので何とか乗り切ろうと思っています。サポータークラブの皆様には、この時期、どのように過ごされておられるでしょうか。

ところで、大阪北部での大地震に続き、西日本各地がまさに未曾有（みぞう）の大雨に見舞われ、多くの方々がなくなり、被害に遭われました。直接の被害があった皆様だけでなくご親戚などが被害に遭われた皆様もおありかと思います。心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早いご回復をお祈り申し上げます。

さて、なにわの里サポータークラブへ昨年度も多くの皆様からご寄付をいただき、本当にありがとうございました。上記に昨年度のご報告をいたします。このほか、なにわの里家族会様（4月1日より「なにわの里と歩む会に改変）より、2か所のグループホームに、料理をあたたかいまま保存できる温蔵庫を1台ずつ頂戴しました（3月）。併せて御礼申し上げます。

なにわの里は今年度もご利用されるすべての皆様への支援に、全力で取り組みます。

サポータークラブの皆様にも、引き続き、なにわの里・スタッフへの応援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

（石塚）

寄付総額　8,864,874円

（内訳）

なにわの里家族会	6,163,502円
その他個人（128件）	1,351,372円
法人・団体（ 19件）	1,350,000円

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などでご支援をいただいた方々（敬称略・順不同）

２０１８年4月1日～２０１８年6月３０日

法人・団体の部

㈱カシワラテック　　理容コロニー　　ボランティアなでしこ会

個人の部

小島純子　馬場幸枝　谷水みさ子　光田一二三　山下孝子　小畑チヅ子　油利悦彰
車谷二三男　車谷眞知子　辻岡ユリ子　井上明子　西村純枝　菊池信子　綿貫武則
奥村信子　小島勝　井上政二　森克雄　渡邉信邦

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。
インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

スタッフぅ～

（通所支援２係　係長）

― なにわの里に来る前は、どんなお仕事を？

１０年ほど物流関係の仕事をしていました。その前は、スケートリンクで働いていたこともあります。もともとアイスホッケーをやっていて、その関係で。あと、カナダにいたこともあるんです。

― そんな金光さんが、福祉の仕事に就いた経緯は？

妻と妻の両親が看護師をしていて、対人援助の仕事の話はよく聞かせてくれていたんです。それで通信制の専門学校に通い、社会福祉士の資格を取りました。物流の仕事を辞めて、以前から考えていた福祉関係の仕事を･･･と思ったときに、なにわの里のことを知りました。

― 金光さんが思う、この仕事のやりがいってどんなところでしょうか？

先日、利用者さん数名とスーパー銭湯に行ったんです。普段もお風呂の様子は見ているわけですが、入浴の介助をしているときと何か違ったんですね。こちらも裸になって、背中を流して、同じ時間を過ごしたのがとても楽しかったです。「利用者さんと支援者」という関係だけでなく、「人と人との付き合い」を感じられる瞬間が、楽しさだったりやりがいだったりするのかもしれません。

STAFF INTERVIEW

あとがき

発行日現在、ロシアワールドカップはいよいよ決勝に進んだ国が決まり佳境に入っています！　カップを掲げるのはクロアチアなのか、フランスなのか・・・楽しみです！！（小池）

先日の地震後、我が家では慌てて防災グッズを揃えました。地震・大雨と、大きな自然災害が続いています。普段からの備えや意識が大事だと改めて感じさせられました。　（楳田）

2018 年　夏号(No.91)
2018 年　7 月 12 日発行
発行責任者　前田研介
社会福祉法人　なにわの里
〒582-0025　柏原市国分西 1-3-43HOPE ﾊｳｽ 202
E-mail　naniwa@naniwanosato.jp
HP　http://www.nanwanosato.jp